アートで広げる みんなの元気プロジェクト 2023

記録集

アートによる新生ふくしま交流事業「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」2023

制作・編集　認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島
デザイン　有限会社デザイニングマーブル

主　　催　福島県
事業受託者　認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島
協　　力　特定非営利活動法人みんぷく
株式会社キヤノン
小高つながる市実行委員会
えびす講市運営委員会

【お問合せ】
認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島
福島県福島市三河北町2-8 Coco Mezon1階B室
TEL 024-563-1955　FAX 024-563-1955　E-mail info@f-jdi.com

アートによる新生ふくしま交流事業

アートによる新生ふくしま交流事業は、芸術活動をとおして被災地域のコミュニティ活性化や被災された方々の心の復興を支援する「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」、子ども達に創作活動の機会を提供し心豊かな成長を支援する「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」の2つのプロジェクトで構成されています。

それぞれ県内外で活躍するアーティストを講師としてお招きし、アートワークショップを開催しました。

アートで広げる 2023

みんなの元気プロジェクト

アートで広げるみんなの元気プロジェクト（以下、元気プロジェクト）では、東日本大震災により甚大な被害を受けた浜通り地域にお住まいの方々と復興公営住宅にお住まいの方々を対象として、アートのワークショップを開催しています。

復興公営住宅では、被災者支援活動を行っているNPO法人みんぷくに御協力をいただき、参加者の自己表現や生き甲斐の創出、地域コミュニティとの繋がりを深めることを目的として、ワークショップを開催しました。

浜通り地域では、地域の魅力の向上や愛着の形成に繋がるように、観光交流・商工関係団体、教育機関等と連携して、地域の中にある素材やテーマを用いたワークショップを開催しました。

CONTENTS

復興公営住宅で開催したプログラム

Program 1 P2
自分の思いをカタチにしよう　講師　黒沼　令

Program 2 P6
かさこそ葉っぱのありがとうBOX　講師　小原　風子

Program 3 P8
ポストカードをつくろう　講師　中村　ころもち

Program 4 P10
藍染めのオリジナルデザイン　講師　鈴木　美佐子

浜通り地域で開催したプログラム P14

Program 1 P16
相双のかたち・私たちのかたち　講師　中村　ころもち

Program 2 P18
富岡町にぎわいダンス・アニメーション　講師　はかた　てつや

Program 3 P22
まちと私の小さな写真旅　講師　山崎　エリナ

Program 4 P26
ころころさんをつくろう　講師　小原　風子

みんなのアート作品展
（アートで広げる子どもの未来プロジェクト共同開催） P28

–振り返りと可能性– プロジェクト関係者活動報告会
（アートで広げる子どもの未来プロジェクト共同開催） P29

Program 1

自分の思いをカタチにしよう

思い出の形ってどんなだろう？
形のない思い出を粘土で立体にし、低融点金属で鋳造します。
ふくしまの木の台座と組み合わせて、小さな彫刻をつくります。

2023.11.17 fri　郡山市
守山駅西団地

2023.11.24 fri　郡山市
守山駅西団地

講師　**黒沼　令**　Rei Kuronuma

郡山女子大学短期大学部地域創成学科准教授・彫刻家。
木彫制作に取り組み、国展準会員優作賞など受賞多数。
人間とは何か、現代における人間を具象表現を通して探究している。

みんなで一緒にやって行きましょうと、復興公営住宅内外に広くイベントを告知

鋳造のワークショップ「自分の思いをカタチにしよう」は、計３回の連続講座スタイルで開催しました。ワークショップの告知には、守山駅西団地の柴自治会長をはじめ、地区の文化祭をきっかけにご近所の方々と地道に交流を深めてこられた自治会の役員の方々、地域と復興公営住宅の皆さんの新たな交流の場の創出など人と人を繋ぐ支援活動を続けているNPO法人みんぷく郡山事務所のコミュニティ交流員の方々の御協力がありました。

ご尽力くださったみんぷくの鈴木さんと吉田さんに振り返っていただくと、こんなふうに話してくださいました。「コロナ禍の遠慮もあって５類に移行したとは言え、『誘っては申し訳ないかも』という雰囲気が無きにしも非ず…。私たちとしては、遠慮するのではなくて『みんなで一緒にやって行きましょう』という気持ちで、たくさんお声がけさせていただきました」。

参加者の感想

- 何十年かぶりに粘土いじりをしました。童心にかえってとても楽しかったです。
- 粘土の作品がこんな風に生まれ変わって感動です。
- ビーズで作品を作っていますので分野違いで難しいかな、とちょっとストレスも感じましたが、いざやってみると楽しい充実した時を過ごせました。
- 初めて参加したけど楽しかったです。
- 楽しかったです。学生さんもお手伝いありがとう。また近所であればぜひ参加したいです。
- 楽しかった！！再度、チャレンジしたいです。

小さい粘土を金属に置き換える 初めてのアート体験に皆さん夢中

Program 1

ワークショップには、震災前は浪江町や富岡町、双葉町などに住んでおられた復興公営住宅にお住まいの皆さん、ご近所の方、ボランティアの郡山女子大学生、NPO法人みんぷくのお二人も加って、にぎやかに始まりました。初日は、粘土を転がしながら好きな形を作った後、紙コップに入れ石膏を流し込み、型を取るところまで。

2回目と3回目は、11月24日に一気に進めました。まずは「鋳込み」から。卓上コンロでドロドロにした低融点金属を石膏型に流し込み、冷やして石膏を割り、金属を取り出します。ドキドキしながら割っていくと、イルカや星、肉球など、手のひらサイズの作品が、次々に出てきました。葉っぱを作った方は、鋳込みの際に空気が入り、穴が空いた箇所もありました。「それも味わい」と、あえて虫食いのイメージで仕上げ「おいしい葉っぱ」と、名付けました。　仕上げは「磨き」です。「紙やすりで磨きながら金属が変化していく過程を楽しんでほしい」と黒沼先生。9種類の紙ヤスリで磨く際には、女子大生が懸命にサポートしました。ピカピカに磨き上げた作品を乗せる台座は、ふくしまの木です。

完成品を眺めながら「団地を出た後もワークショップに呼んでもらえるのがうれしい」と話してくださったのは、同団地を出られて自宅を再建された安類聖子さん。東日本大震災では、富岡町から川内村へ避難し、新潟→池袋（東京都）→ビッグパレット（郡山市）→守山駅西団地と移動されたとのこと。「転々と避難しながら布小物作りとか畑仕事とか、いろんなイベントに参加したけど、金属を使うのは今回が初めてよ（笑）」とも。「もっと違う方法で作品をつくれるんじゃないかと思うところがあるので、またチャレンジしたい」と話すのは、金属製の星で型を取ったり、磨きにハンダゴテを使うなど、鋳造ワークショップの新境地を開拓し続けた柴自治会長です。黒沼先生もたくさん刺激を受けたご様子でした。

Program 2

かさこそ葉っぱのありがとうBOX

いわき市の遠野和紙を使って、葉っぱをフロッタージュ。
出来上がったメッセージカードを入れておく
小さな箱「ありがとうBOX」も作ります。

2023.11.21 tue 会津若松市
城北団地

講師　**小原　風子**　Fuko Obara

画家・絵本作家。
チルドレンズミュージアムや学童保育など、子どもたちと関わる仕事を続けながら、海のそばで絵や絵本の制作をしている。2012年『僕らの海』、2015年『もこもこ雲のテラドラゴン』、2016年『ももいろのアルパカ』を発表。南相馬を中心に地元のアーティストや活動家とのコラボレーションにも取り組んでいる。

葉っぱに和紙を重ねてゴシゴシこすり出し
手を使うと心が動く。
子ども時代を語り始める方も

「ありがとう」の心でいっぱいになる「かさこそ葉っぱのありがとうBOX」を作りました。箱の中は2段になっていて、一つは自分で作ったメッセージカード用。もう一つは、誰かから届いた「ありがとう」のカードを入れます。材料は、和紙（いわきの遠野和紙）と紙製の小箱、小原先生があらかじめ用意してくださった頭が木の実、胴体が小枝のお人形、手足に使うモールなどです。好きな形のお人形と好きな色のモールを選んだら、顔を描き、モールの手足をつけます。どんぐりの帽子をかぶせたら完成です。「あらぁ～木の実のお顔、自分に似てくるねー！」「こんな楽しいことが出来て良かった。長生きしないとダメだ！」など、おしゃべりにも花が咲きます。続いてフロッタージュ（こすり出し）です。葉っぱに和紙を重ねてクレヨンや色鉛筆でこすり、葉脈を写し取ります。和紙を葉っぱの形に切り抜いてメッセージカードにしたり、小箱に貼り付けたりしました。

城北団地に住んでおられる方は、相馬が故郷という方もおられましたが、ほとんどが大熊町から避難された方とのこと。「来たばかりの頃は、雪深くてびっくりしたよ。会津の人たちは、それでも昔に比べたら全然降らなくなった方だよって言うんだけどねー」、「俺は戦争で6歳の頃から親と離ればなれで生きてきたんだよ。戦争はやだなぁ」など、時間の経過とともにご自身の幼少時代を語り出す方も現れて…。小原先生は、「私もいろいろと感じることのあるワークショップとなりました」と話しておられました。

参加者の感想

- はじめて参加して大変楽しかったです。また参加してみたいです。
- 楽しい気持ちになりました。
- いつもは一人ぽつんとしている時間が多いけど、今日は楽しい一時をありがとうございます。
- 先生方、皆様が優しくて大変楽しい時間をすごしました。ありがとうございました。

Program 3

ポストカードをつくろう

色とりどりの紙を切って、貼って、ポストカード（絵ハガキ）の原画を作ります。
それをハガキサイズに印刷し、後日お届けします。
あなたは誰にハガキを出しますか？
原画は、フレームに入れてインテリアに。

2023.12.10 sun 郡山市
日和田団地

講師　中村　ころもち　Koromochi Nakamura

イラストレーター。
アナログとデジタルの中間的イラストレーションや陶による制作を行う。玄光社『illustration』第219回ザ・チョイス入選。都内での展示を中心に作品を発表している。

地域の方も参加しておしゃべりにも花を咲かせながら絵ハガキを作りました

最初からハガキサイズで原画を作ると細かい部分の表現が難しくなるので、台紙はA4サイズを使いました。表現するのは、思い出の風景や大切にしているものなど。参加された皆さんは、絵本、復興公営住宅の集会所に飾られている富岡町の桜の写真などをモチーフに、イメージを膨らませました。キツネの親子や猫、桜など、下描きができたら本番です。上川崎和紙や多様な色や模様の紙を切ったり、貼ったり…。「桜のグラデーションが難しい」と悩む参加者に、中村先生は「グラデーションのある和紙を下地にして、ちぎった和紙をところどころに貼るといいですよ。貼った後、足りないところに色鉛筆とかで描き足してもいいですよ」と、アドバイス。おしゃべりにも花を咲かせながら終了時間を延長して完成させました。

「いろいろなことが億劫になってくる年代ではありますが、思っていた以上の作品ができて、みんなで達成感を味わいました」と話すのは、多岐にわたりサポートしてくださったNPO法人みんぷく郡山事務所の鈴木さんと吉田さん（コミュニティ交流員）です。「団地の住民さんだけではなかなか交流が進まない昨今、地域のみなさんにも声をかけました。みんなでものづくりができて、ワークショップの後にお茶会もできたので、すごく良かったと思います」とも。原画を持ち帰り、ハガキサイズに印刷して届けてくださった中村先生も「手を動かしながらしゃべるというような、ながらのやりとりも面白くて。最終的にみなさん『できた！』『完成！』みたいな感じで、楽しく終われたのがよかったと思います」と、話してくださいました。

参加者の感想

- とても楽しい講座でした。作る喜びを久しぶりに感じました。また、企画していただければ幸いです。
- 楽しく参加しました。ありがとうございます。

- 初めての体験でしたが、ちぎり絵は思ったように作れませんでした。しっかり題材を決めておくこと大切です。

Program 4

藍染めのオリジナルデザイン

藍染め体験をしてみましょう。
自分だけのオリジナルの手ぬぐいやあづま袋などを作ります。

2023.10.17 tue 会津若松市 城北団地	2023.11.1 wed 会津若松市 年貢町団地	2023.11.29 wed 郡山市 日和田団地
2023.10.31 tue 会津若松市 城北団地	2023.11.8 wed 会津若松市 年貢町団地	2023.12.6 wed 郡山市 日和田団地
	2023.11.22 wed 会津若松市 年貢町団地	

講師　**鈴木　美佐子**　Misako Suzuki

織物・染織作家。
2001年より福島市にて「工房おりをり」を開設し、織物・紡ぎ・草木染め・羊毛クラフトなどの講習や作品販売を行う。2007年に羊毛フェルトの材料・作品専門店「町工房おりをり」、2010年に古民家を改修した制作工房「染織工房おりをり」を開設。

憧れの藍染め。綿や絹のストールなどを選んで絞り模様をつけたら本番です。

和やかな雰囲気の中、行われた藍染めのワークショップには、復興公営住宅にお住まいの皆さんと、その近所にお住まいの皆さんが参加しました。

講師の鈴木美佐子先生は、蚕を育てて繭から絹糸を紡ぎ、染織と織物まで行う作家です。初日は、鈴木先生が持参された、思わずため息がこぼれてしまうほど素敵な藍染めの見本を見て、藍染めの楽しさや面白さを感じるところから始まりました。続いては、オリジナルデザインの肝となる「絞り」です。鈴木先生も「藍染めをする前の絞りが一番大事」と話します。無地の綿や絹のストール、Tシャツ、手ぬぐい、のれんなどの中から染めたいものを選び、ビー玉や洗濯バサミ、割り箸、輪ゴムなどを使って絞り模様をデザインしていきます。藍が入りやすいように隙間を確保するなどコツも教えていただきました。

2日目は、本番の藍染めです。染めたい物を藍液に浸し、隅々まで藍が行き渡るようにしたら絞ります。広げて空気にさらし酸化させると若草色からうっすら藍色になっていきます（1回目）。再び藍液に浸して絞り、広げて空気にさらします（2回目）。何度も藍液に浸けることで色が濃くなっていきます。「3回浸けましょう。浸けてよかったと思うから。藍は濃い方が高級なのよ」と、鈴木先生。3回浸けたら水の中に入れて絞っていた輪ゴムなどを外します。水ですすぎ、定着のため酢を入れた水に約10分浸け、再び水ですすぎ、乾いたら完成です。休憩時間にカラフルな羊毛フェルトでフェルトボール作りも教えていただきました。楽しいことがてんこ盛りのプログラムに、みなさん大満足。

参加者の感想

- 良い雰囲気の中で色々な作品を作れたことはいい思い出になります。
- 何回でもやりたい、楽しい！！

- 洋服やのれんを染めて楽しみました。色の変化にビックリ。楽しかった。

- 一度やってみたいと思った事なのでとても楽しかったです。

- イベントに参加し、私の気持ちも変化が現れました。とても楽しい一日でした。

- 毎日一人でテレビが友達なので、人とお話出来ることが幸せです。一日楽しく過ごす事ができました。

- 皆さんと仲良く出来てとても楽しかった。親切にしてくれてありがとう。また楽しい活動をお願いします。

藍染め作品を身につけてお茶会を開催
満足感と達成感を長く味わい続けました

３カ所で開催した藍染めのワークショップを鈴木先生は、「みなさん藍染めに憧れを待っていたようで、楽しんでいただけたように思います。柄も自由に絞ったり、くくったりされていました。お互いに作品を認め合うというか、褒め合う感じがすごく印象的でした」と、振り返りました。

特筆すべきは、やはり藍染めの楽しさと達成感を得た時の笑顔です。のれんを染めた女性は、イメージ通りの仕上がりだったそうで「上部から5回、3回、2回と浸す回数を減らしてグラデーションにしました。割り箸を使って絞った部分は、花火のような模様に。ビー玉は、白い輪になりました。いつも一人でぽさっ～としているので、今日は楽しかったです」と話してくださいました。週2回、集会所でサロンを開催して地域の方とお茶を飲んだり、「いきいき百歳体操」などを楽しんでいる年貢町団地では、後日、藍で染めたストールなどを身につけて集まり、お茶会を開催したそうです。鈴木先生にいただいた藍の残り液で洋服など、好きなものを染めて楽しんだとのこと。

嬉しい後日談は他にもあります。藍で染めたTシャツを着て出かけた男性は、「とってもいい。どこで買ったのか」と聞かれ、「自分で染めた」と答えると、「どうやって染めたのか」など、たくさん質問されて嬉しい悲鳴だったとか。「染める際、頭を使うのがいい。思いがけない模様が出るのも楽しい」とも話してくださいました。

gram 4

浜通り地域で開催したプログラム

2023年度の元気プロジェクトは、浜通り地域の活性化の一助になることを目的に、同地域の自治体、観光交流・商工関係団体、教育機関等と連携して、地域で開催されるお祭りなどのイベントに出展しました。そこでは地域の魅力の再発見や愛着につながるようなアートのワークショップを行いました。

第6回小高つながる市

2023年10月14日（土）/南相馬市小高区

小高つながる市は、マルシェを介して小高の住民と来訪者・住民同士をつなげることを目的に、子どもから大人まで楽しめるイベントとして、2019年4月から開催されています（主催：小高つながる市実行委員会、icoi）。第6回小高つながる市は「こえをきく」をテーマに開催され、多くの人が訪れました。元気プロジェクトは、ワークショップエリアにスペースをお借りして、小原風子先生のワークショップ「ころころさんをつくろう」を開催しました。また、相馬総合高等学校と相馬高等学校の美術部のみなさんと「相双のかたち・私たちのかたち」をテーマに制作した作品を会場に展示しました。

第93回富岡えびす講市

2023年11月11日（土）/富岡町

富岡えびす講市は、今年度で93回目を迎える歴史ある富岡町のお祭りです（主催：えびす講市運営委員会）。震災前は富岡町中央商店街で開催されていましたが、3.11により6年間は開催を中止。7年ぶりに復活した後も旧富岡町立第一小学校校庭に場所を移しての開催となっていました。今年度は13年ぶりに富岡町中央商店街での開催となる記念すべき回となりました。元気プロジェクトはお祭り会場の一角にテントをお借りして、小原先生のワークショップ「ころころさんをつくろう」を開催しました。また、えびす講市の開催前には、福島県立ふたば未来学園中学校美術部の生徒さんと富岡町放課後児童クラブの子どもたちとワークショップを開催し、「富岡町にぎわいダンス・アニメーション」を制作しました。さらに山崎エリナ先生のワークショップ「まちと私の小さな写真旅」で撮影した写真を、当日えびす講市会場と富岡町総合福祉センターに展示しました。また、次の日の12日日曜日から19日日曜日まで富岡町「コススタ」でも展示しました。

Program 1

相双のかたち・私たちのかたち

講師　中村　ころもち

高校生たちがそれぞれの過去・現在・未来について話すことを通して、
改めて地域に目を向けることを試みます。
その中で見出したものやことを形に起こしつつ、
大きな段ボールを使いながら造形として再構成していきます。

2023.10.9 mon 相馬市
福島県立相馬総合高等学校

地元愛から生まれた高校生の作品を地域のイベントで展示。会場を盛り上げました

ワークショップ当日、相馬総合高等学校の美術部と相馬高等学校の美術部のみなさんは、普段なかなかできない大きな畳サイズの段ボールと、一辺50㎝と30㎝の2種類の段ボール箱を使って奮闘しました。初めにグループに分かれて、「これまでの自分たちの生活」や「この地域のこと」などの話をしましたが、なかなかイメージがまとまりません。そこで、まずは手を動かしてみることに。教室からホールへ移動すると、段ボールの大きさに刺激を受けたのか、一人、二人と作品づくりが始まりました。それぞれの頭の中にある完成形を思い浮かべながらパーツを切り出し、組み立てていきます。始まると止まらない高校生に刺激され、美術部顧問の先生も、元気プロジェクトのスタッフも作品制作に取り組みました。

完成品は、小高つながる市（小高区）の会場に運び入れ展示しました。高校生の地元愛から生まれた「フグ」や「城もどき」「船」「プラネタリウム」などの作品に見入る家族連れの中には、制作した高校生本人とその家族の姿もありました。「相馬タワー」や、相馬漁港でよく釣れるカレイをモチーフにした作品「カレイサークル」（遊具）は、中に入って遊ぶ子どもたちもいて、地元開催のイベントを盛り上げることに一役買っていました。

参加者の感想

- ダンボールを使った創作は小学生ぶりで普段行う創作とは全く違いました。
- ワークショップは自分で好きなものを作れたので集中して作ることができたし、完成した時の達成感があって楽しかったです。
- 普段は作らないものを作って、すごく想像力を使って、楽しかった。ダンボールって何でも作れるんだと思いました。
- 人によって大きさや何を作るかとかの考えがしっかり分かれて面白かったです。
- 最初はアイデアが思いつかなくて焦っていたけれど友達と協力して、なんとか途中まで形にすることができて良かったです。

Program 2

富岡町にぎわい ダンス・アニメーション

日々の動きを数枚撮影し、人間を対象としたコマ撮りアニメーションを制作します。
自身のアイデアや願いを込めた自発的な動きを映像としてつなげることで、
動きの集合体として「にぎわい」を可視化し、連携やリアクションの場を創出します。

2023.10.30 mon	広野町 福島県立ふたば未来学園中学校	2023.10.31 tue	富岡町 富岡町放課後児童クラブ
2024.1.15 mon	広野町 福島県立ふたば未来学園中学校	2023.11.11 sat	富岡町 第93回富岡えびす講市（富岡町商店街路上）

2023.11.12 sun～19 sun　富岡町
アートで広げるみんなの元気プロジェクトin富岡町
みんなのアート作品展　（作品展示：会場「コススタ富岡」）

講師　はかた　てつや　Tetsuya Hakata

玉川大学講師・アニメーター。
メディア表現（イラストレーション及びアニメーション）と教育を結びつけた活動・制作を行っている。2011年の地上デジタルテレビ放送完全移行推進キャンペーン用のキャラクター「地デジカ」、「アクエリアスビタミンCM」(2014年コカ・コーラ)などがある。

動かないものが動く コマ撮りアニメーション 手法を覚えて情報発信に役立てよう

「福島を外から見ていると、廃炉に向けた動きは大きく報じられていますが、そこに住む人については…。そこで、一人ひとりの考え方や、生活の中にあるものをみんなで共有し、ピクシレーション（コマ撮り）という手法で、写真を映像としてつないでパラパラ漫画風のアニメーションを作り、連携やリアクションの機会の創出に役立ててほしいと考えました」。そう話すのは、講師のはかたてつや先生です。

当日、子どもたちは3枚の写真を繋いで早送りで再生するお手本を見てから、ジャンプしたり、怪獣やゾンビ、千手観音の真似をしたりしました。その動きを一枚ずつ撮影し、パラパラ漫画のようにコマ送りで再生しました。「ポーズを組み合わせると、アニメーションとしてダンスが出来ます」と、はかた先生。慣れてきたところで、写真を撮る子と被写体になる子を、交代しながら撮影と再生を繰り返しました。撮って、再生して、次はどんなポーズにするかを考える流れができると、みんなノリノリ。どんどんアイデアが出てきます。「教える側が管理するのではなく、その場にあるものを活かしたりしながらアニメーションを作るプロセスを、全部楽しむところまで出来てよかったです」。

参加した中学生に感想を聞くと、「私たちの美術部を紹介する作品を作って部員募集につなげるのもいいかもと思いました」と、もう次の展開を考えていました。富岡町放課後児童クラブの先生は、「子どもたちには、いろいろな経験をさせたいし、いろいろな人と関わらせたいと考えているのですが、現状では住んでいる人が少ないので、今回のようなワークショップは、とてもいい出会いの場になったと思います」と、話してくださいました。

参加者の感想

- 0のところから考えて、何かを作るというのが何でもできて、面白かったです。普段できない動きができたりして、やっても見てても楽しめました。
- また機会があれば、大勢でやってみたいです。
- 身近にアニメーションを制作できることを知れて良かったです。
- アニメーションにより興味を持てました。絵を再現して動くのが面白かったです。
- みんなと息を合わせてジャンプするの楽しかった。撮る枚数が多いほど滑らかな気がする。
- 簡単にアニメーションを作れることを知れたので、家や学校でもやってみたいと思った。

富岡えびす講市で動画の上映と簡易版コマ撮りアニメーション体験を実施

Program 2

ワークショップで撮影した写真と録音した音声は、はかた先生が「富岡町にぎわいダンス・アニメーション」という動画にまとめてくださいました。この動画は、11月11日に開催された第93回富岡えびす講市の会場で上映したほか、ワークショップで「簡易版コマ撮りアニメーション体験」も実施しました。

秋晴れの下、富岡町商店街路上でにぎやかに始まったえびす講市には、ふたば未来学園中学校美術部のみなさんと顧問の先生、放課後児童クラブの子どもたちと先生も訪ねて来てくれただけでなく、美術部のみなさんがはかた先生の「簡易版コマ撮りアニメーション体験」と、小原風子先生のワークショップ「ころころさんをつくろう」のお手伝いを買って出てくれました。元気プロジェクトのブースは大盛り上がりです！

家族と一緒にえびす講市に遊びに来た子どもたちに声をかけたり、コマ撮りアニメーション体験をサポートしたりしながら、みんなで楽しいひとときを過ごしました。５枚のコマ撮りを繋ぎ、早送りで再生した自身の動画を見て笑いころげる子どももいました。

Program 3

まちと私の小さな写真旅

写真家・山崎エリナさんと一緒に富岡町のフォトスポットをバスで巡り、撮影のポイントやコツを学びながら、富岡町の魅力を再発見。

※撮影した写真は「富岡町魅力再発見フォトコンテスト」への応募が可能です。

2023.10.29 sun 富岡町
富岡町内

2023.11.11 sat 富岡町
第93回富岡えびす講市
（写真展示）

2023.11.12 sun〜19 sun
富岡町
アートで広げるみんなの元気プロジェクトin富岡町
みんなのアート作品展
（写真展示：会場「コススタ富岡」）

講師　**山崎　エリナ**　*Erina Yamaguchi*

写真家。

兵庫県出身。阪神淡路大震災後に渡仏。パリを拠点に世界40カ国以上を旅して撮影。近年は、土木関連の取り組みを撮影した写真集で注目を集める。写真集に、『Civil Engineers 土木の肖像』、『トンネル誕生』などがある。

カメラ片手に2023年10月29日の富岡をみんなで巡って感じました

写真家の山崎先生に撮影のポイントやコツを学びながら富岡町のフォトスポットをバスで巡るワークショップ「まちと私の小さな写真旅」は、富岡町観光協会とキヤノン株式会社の協力を得て開催しました。ワークショップに込めた思いを山崎先生は、「思い出の場所だったり、初めて訪れる場所だったり…そこで写真に切り取ることでどう感じたか。それぞれの思いを投影した写真を、みんなで言葉にしながら交流が広がっていけばいいなと思っています」と話します。

当日は、午後1時半、富岡駅に集合してバスに乗り込みました。南相馬市、福島市、郡山市、田村市、富岡町、東京都など多方面から申し込んでくださった方の中には、エリナ先生に会ってみたくて参加された方、2021年に続いて2回目の参加という方もいらっしゃいました。今回は、①2019年に復旧した富岡漁港→②ワイン醸造用のブドウ畑越しに太平洋や富岡町内を一望できる見晴らし台→③JR夜ノ森駅→④弘法大師ゆらいの福島八十八ヶ所霊場の第43番札所になっている宝泉寺と巡り、作品のお披露目と山崎先生の講評は、富岡総合福祉センターで行いました。雨の予報だったにも関わらず、天気は最後まで悪くならずカメラ片手に、みんなで2023年10月29日の富岡を巡り、感じました。

参加者の感想

- 地元であるが、車で通りすぎるばかりの町内の変わりゆく姿を見て、色々考えさせられた。
- 私の様な初心者でもカメラに触れることができ、先生にもアドバイスを頂け、楽しむことができました。
- 普段訪問する機会が無い場所へカメラを持って行って語らう時間は、自分の事もいろいろ振り返る機会となって良かったです。
- SNSや本を通してだけでは得られない知識やテクニックを学ぶことができて良かったです。
- プロの方や他の写真家さんと交流することがなかなか機会が無いので、とても良い経験になりました。
- 写真を多人数で撮って回る経験は初めてでしたが、数十年前のエピソードや現地の食の話なども併せて楽しめた。

富岡町をそれぞれに感じて撮影した写真のお披露目タイム。心に響く山崎先生の講評

Program 3

写真旅の途中、JR夜ノ森駅でカメラの絞りについて質問していた男性は、「数字が大きいと奥までくっきり鮮明に撮れると教えてもらったので、F値16で改札を撮りました。パリッと写りました」と納得のご様子。写真を始めたばかりという女性は、「教えてもらえると理解が深まります。写真を撮る方と触れ合う機会も、プロの方に聞ける機会もなかなかないので、また開催してほしいです」と話していました。

作品のお披露目タイムでは、山崎先生とのやりとりが心に響いたという声がたくさん聞かれました。見晴らし台の柱と手すりを船の先端に見立てて、前に進んでいくようなイメージで撮った写真に「展望」と名付けた男性が、「タイトルを『甲板』にしてもよかったかも」と話すと、「それも面白いですね。『前へ進もう』とか副題があると今、お話してくださった気持ちが乗って、より写真が伝わると思います」と山崎先生。JA双葉と書かれた看板を撮り「合併が来ない農協」と名付けた方には、「通り過ぎてしまいそうな風景を切り取ってそこまで感じとられている。この1枚にいろんなものが情報として入っていますね」と語りかけました。講評の後、富岡町生まれの男性に感想をお聞きすると、「自分が小さかった頃の思い出のある風景を、みなさんにたくさん撮っていただきました。みなさん、富岡のそういうところを見ているんだなぁというのと、報道写真とはまた違う個人が撮る温もりを感じる写真が見られて感慨深かったです」と話してくださいました。富岡えびす講市での展示でも「懐かしい」「これは、富岡漁港だね」など、故郷の写真をしみじみと味わうお客様の姿がありました。

Program 4

ころころさんをつくろう

講師　小原　風子

海から分けてもらった石ころや流木、貝殻にこんにゃくのりを使って
和紙を優しく撫でるように貼り付けて、小さなオブジェを作ります。

2023.10.14 sat 南相馬市小高区
第6回小高つながる市（小高交流センター）

2023.11.11 sat 富岡町
第93回富岡えびす講市
（富岡中央商店街路上、富岡町総合福祉センター）

年齢不問。だれでもすぐにできる「ころころさん」自分で選んだ石の声を聞きながら作りました

小原先生は、小高つながる市（小高区）と富岡えびす講市（富岡町）のイベント会場で、ワークショップを行いました。こんにゃくのりを使って石ころや流木、貝殻に和紙を貼り、小さなオブジェを作るワークショップは大盛況。開催地と近隣市町村から来られた家族連れやお年寄り、若者など、たくさんの方に楽しんでいただきました。

「静かな作業の中で、子どもも大人も、自分で選んだ石の声を聞いているように見えました。耳を傾けているうちに自分の声も聞こえてきて、石と対話しながら作品が生まれていく様子を見られたのが嬉しかったです」と小原先生。参加された皆さんの感想の一部をお届けします。

参加者の感想

- 私たちこういうワークショップが大好きなの。ペーパーウエイトにします。
- 息子も大喜び。次から次とアイデアが湧いてくるみたいで10個も作りました。

- 家族で楽しめるのがいいですね。長女は丸い石にブルーの和紙を、長男は三角の石、次女は小さい巻貝の中までブルーの和紙を貼り顔を描きました。

- 小名浜から来ました。私と妻が富岡町の出身です。2人の母校も見てきました。娘は作るのが大好きなので、こうしたイベントはありがたいです。イベントがあると富岡を訪ねるきっかけにもなります。

- 楢葉町の収穫祭で孫が太鼓を演奏したの。それを見てからこちらに来ました。手作りが好きなのよ。

- もともとの路上開催スタイルでのえびす講だと聞いて来ました。いい感じにできました。

- 親子で楽しめるワークショップは、いいですね。
- 土木関係の仕事で富岡に来ました。好きな形の石を選んで作りました。

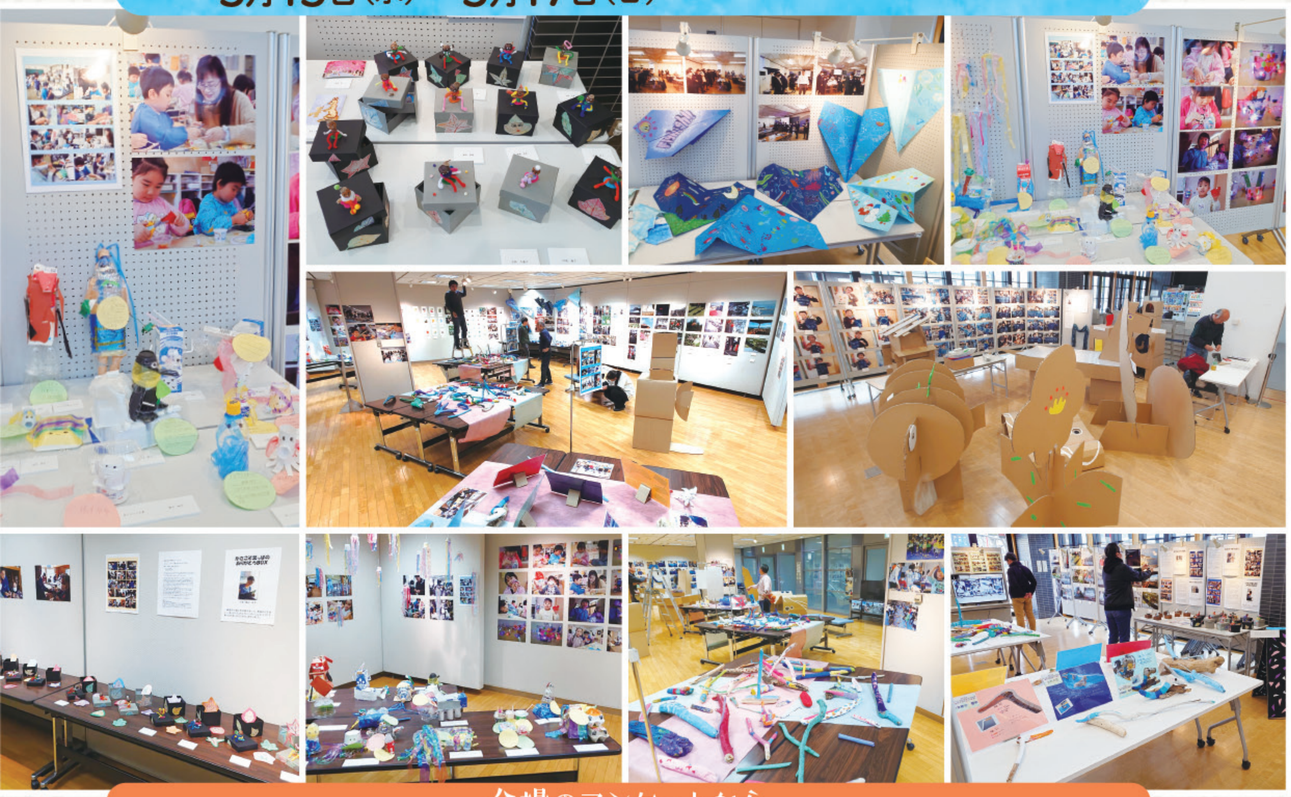
アートによる新生ふくしま交流事業
「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」

みんなのアート作品展

アートで広げる子どもの未来プロジェクト・アートで広げるみんなの元気プロジェクト
県内外で活躍する6名の講師とともに創り上げた参加者の作品を展示しました。

2024年1月23日（火）～1月25日（木）　会場：会津稽古堂市民ギャラリー（会津若松市）

2024年3月13日（水）～3月17日（日）　会場：郡山ビッグアイ 市民ふれあいプラザ（郡山市）



会場のアンケートから

- 全ての作品づくりに生き生きとした参加者の表情、素敵でした。生きる力が感じさせられました。
- 子どもの自由な発想にビックリしました。
- 大人は上手く作っていますが、子どもさんは自由に常識に、はまらない作品で素晴らしかったです。
- 芸術で地域おこし良いですね。
- 参加者の年齢の幅が広く、素材等も自由な感じだと思いました。
- 様々な表現を作って豊かな感性や個性を感じる作品展でした。
- この様なワークショップを行っていることも、様々なアートがあることも初めて知って新鮮でした。
- 安心して語り、考え、表現する居場所と時間があるって良いですね。
- どの作品も素晴らしかったです。アートの力を感じました。

ZOOMによるオンライン開催

アートで広げる子どもの未来プロジェクト
アートで広げるみんなの元気プロジェクト

振り返りと可能性

関係者共有活動報告会

2024年3月17日(日)13:00～15:00

2023年度に福島県が実施した「アートによる新生ふくしま交流事業」の取り組み「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」&「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」のワークショップを振り返りました。講師の皆さん、関係者の方々にご参加いただき、アートを通して心の復興、子どもたちの心豊かな成長をどのように支援して行くことができるか考え、可能性や想いなど伺いました。

過程と会話を大切にするワークショップ

「ありがとうBOX」では、アートを通して作る過程を楽しみ、みんなで話しをする空間を共有したみたいな…そういう時間を大切にさせてもらえてよかったなぁと思いました。「ころころさんをつくろう」では、イベントに集まって来た方々と、10分くらいでできるころころさん作りを介して、「うまくできたね」「よかったね」など、いろんな会話をしながら過ごせてよかったと思っています。未来プロジェクトの講師の先生方の「自然を中心に」というお話は、私も同じ思いです。2020年にアートによる新生ふくしま交流事業で、春野先生が流木を使うワークショップをなさった時、海に返すところまでできなかったので、「後で海に戻してね」と頼まれて。波が大きい日にみんなが作った流木が、また海に戻っていくところを見届けました。未来プロジェクトの先生方の話を聞いて、その時のことを思い出しました。

（小原風子さん）

また次回へと続いて行く時間

２年続けて講師として呼んでいただいています。参加してくださる方々とフラットに話すことを大事に考えながら毎回、取り組んでいます。今回も「こんなものを作るために集まります」みたいに大上段に構えるのではなく、なんとなく集まって、なんとなく手を動かして、楽しんで、おしゃべりして、「なんか今日楽しかったね」みたいな時間を作りたいなぁという感じで取り組みました。そういう場所、空間を作るためのきっかけとして、「今日、こんなことしますよ」みたいなね。終わった時にできたものを見て「あぁ、この時楽しかったね」とか、「次はこんなことしたいね」みたいなところに繋がっていったらいいなと思っています。

（中村ころもちさん）

養蚕を通して福島を表現。発信していく

藍染めをしながら、いろいろお話ができて良かったと思っています。やはりまだ言うに言えない悩みを抱えている方たちもいるでしょうし。養蚕のことを話してくださった方もいらっしゃいました。未来プロジェクトの渡邊先生が「外から持ってくるものでなくてやはり福島にあるものを」とおっしゃったことに、すごく共感します。私は40数年、草木染めや織物など、自然素材で仕事をしてきました。大震災をきっかけに自然からの恩恵を、福島の養蚕を通して子どもたちにも伝えていきたいと思うようになりました。学校でワークショップを行ったりしています。福島にあるものを知れば知るほどワクワクしてくるということもあります。福島らしいものをアート的に表現することについては、まだまだ力不足だと思うので。先生方と一緒に、力をいただきながら表現と発信ができればいいなと思っております。

（鈴木美佐子さん）

世界共通の機材で地域を深掘り表現する

今ですとアニメーションは、機械を使ってアプローチしていく手法になります。皆さんのお話を伺いながら福島の自然や空間にあるもの…息遣いとか、そういったものからかけ離れないように、むしろ参加者のみなさんと一緒に、そこにフォーカスしていけるようなアプローチを、さらに考えていきたいと思いました。今回は、中学校と放課後児童クラブを別々に撮影して編集して一つにまとめましたが、いくつかあるのであれば、それぞれの関わりとかも考えていけると、作る途中の楽しさとか、思わぬ人たちとの出会いの嬉しさとも反映させていけるのかなあとも思いました。自然の素材を使う皆さんのお話を伺って、機材を使う自分の可能性みたいなところを、「じゃあここをもっと広げてみよう」みたいにして探っていきたいと思います。

（はかたてつやさん）

地域を大切に思う講師の方々に感謝

元気プロジェクトに参加されたみなさんが、毎回すごくいい気持ちで自宅に戻られるのを見ているので、私たちも団地はもちろんのこと、地域のみなさんへのお声がけからワークショップ当日まで、毎年関わらせていただいております。参加されたみなさんは、「ぜひ来年も」と言ってくださいます。なぜかなあと考えた時、地域をすごく大切にされている講師の先生方の、愛情あふれるプロジェクトだからだと、報告会に参加させていただいて改めて感じました。また次年度開催する場合には、この素晴らしさを伝えて、会場や地域をあたたかな空気で包んでいきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いします。

（NPO法人みんぷく郡山事務所
コミュニティ交流員
鈴木さん、吉田さん）

福島に必要なテーマと真摯に向き合う講師陣

今年度の元気プロジェクトで感じたのは、移り住んできた方々と従来からあるコミュニティの方々と、ともに活動される時間が増えていることです。それは自治会、自治体、関係機関、アーティストの方々のお力あってのことと思いながら聞いておりました。講師の先生方は、県内外から来てくださっています。みなさん、その地域で大事にしていることを現地の方に聞いて、取り組んでくださっています。そこがこの事業の魅力でもあります。ワークショップで使った流木を海に返すという話を、私たちの暮らしに置き換えてみると、電気でも資源でも何でも、何かから取るということを私たちは、当たり前のように思っています。もう散々もらっているわけなので、今度はどう返すか…戻すか。そちらの感性というか、叡智というか、そういうことがこれから必要になるのかなと感じました。

（事務局　笠原広一）